



復刊第116号
題字 吉岡 弥生

雑観

副会長 小俣喜久子

日本女医学会の先生方にはお障りもなく、ご機嫌ようお過ごしのこととお慶び申し上げます。

今年の関東地方は雨や曇りの日が多く、夏らしい日は数えるほどで気がつくともう蟋蟀、松虫、鈴虫のすだく季節になっておりました。

過日のニュースで国連の統計によると世界人口はすでに五十億に達するとか。大変な人口であります。この人口密度の中で人間活動の巨大化が大気中の炭酸ガスを二〇%も増加させることになり、世界の気象に変化が生じたということであり、これが農産物や水資源にも影響を及ぼしていると報せられておりました。が、世界の人口増加がこのように人間生活に大きな脅威をもたらすことはまことに由々しき問題であると存

じます。

国内では円高貿易摩擦、税制改革など経済環境も思うにまかせぬ状況であります。私も医師に対して二十一世紀に向かって医療の質とともに医師税制改革、医療行政の方針など、次々と問題が提起されております。

九月五日より第十六回国際リハビリテーション会議が初めて日本で開催されました。

常陸宮両殿下のご臨席のもと、竹下総理・鈴木都知事・国連代表者等の祝詞に始まり、世界各国からの演題で各分科会はいずれも盛会でありました。このような会に障害者自ら出席している様子は、糖尿病学会で見受けられる患者の光景を思い出しました。

日本の障害者数の概数は約四二〇万人といわれ、総人口の約三・五%にあたるそうです。聴言障害・視覚障害、そして肢体不自由の中に脳性マヒ、脊髄性小児マヒ、進行性筋萎縮症、骨関節疾患、リウマチ性疾患、脳血管障害等があり、特にこの脳血管障害は高齢化が進むにつれて増加率は激増しているそうですが、これは各国共通のようでありました。その他、心・腎・呼吸器・膀胱・直腸・小腸の機能障害が永続し、かつ日常生活が著しく制限を受ける程度と認められるものなど、精神障害をも入れた障害者疾患の多岐にわたる状況を私はこの会議に出席する機会を得て把握することができました。また年齢階級別の分布では七十歳以上の階級が多く、人口構造の高齢化現象が身体障害者にも及んでいることを痛感した次第であります。

各国の演者の言葉にも入院看護より自宅ケアを主として医療・自立訓練など障害者の援助のために福祉行政の充実を計るべく検討してゆくのであります。

日本でも、厚生省では従来の社会福祉や疾患対策の施策をより拡充するよう計画しているとのこと。

日本女医学会はすでにご承知のように吉岡賞、荻野吟子賞、優功賞等を設定し、僻地助成また、研究助成制度を設けて会員の功績を称え、若い研究者に研究助成をしております。また、一九三二年国際女医学会に加盟してより世界の女医等とともに女

もくじ

雑観	小俣喜久子 (1)
監事に就任して	添田 百枝 (2)
監事就任のご挨拶	西山喜代子 (2)
監事就任のご挨拶	山口 三重 (2)
第二回ワークショップ	
第二回ワークショップ開催される	藤井 儔子 (3)
自己抗体の由来とその産生統御機構	広瀬 幸子 (4)
関節リウマチの基礎と臨床	菅原 幸子 (4)
皮膚科領域における自己免疫疾患	溝口 昌子 (5)
眼科領域における自己免疫疾患	小暮美津子 (6)
学術研究助成者の研究経過報告	
マクロファージによる酸化変性低比重リポ蛋白の代謝	
久保田くら常任理事の叙勲を祝す	平松 和子 (7)
若い会員の日々	丸山 芙実 (8)
第34回 日本女医学会定時総会のご案内	中島 絵里 (8)
評議員および予備評議員名	(7)
昭和六十二年度日本女医学会会員学位取得者一覧表	(9)
常任理事会議事録	(10)
会員動静	(10)
編集後記	(10)

医の地位向上に努め、国内の婦人団体との交流を計っておりますが、日本女医学会の将来への発展を願うためには会員の増加を心がけねばなりません。全国で大きな輪となつ

てまず社会への貢献を考えてはと思
います。地域医療・福祉活動など、
今後の高齢化時代に女医としてする
べきことが必ずあると存じます。そ
して実力が発揮できた時、日本女医
会の新しいメリットが生まれてくる
のではないのでしょうか。理事会で、
また各支部会で日本女医会として大
いに検討していただければ幸甚に存
じます。何卒、日本女医会発展のた
めご支援、ご協力を賜りますよう
改めてお願い申し上げます。

監事に就任して



添田 百枝

今年の総会から八月の初めまで、
不順な天候がつづき、皆様、さぞ凌
ぎ難い日々でしたことでしょう。
私は八月十日から十日間、トルコ

約二十年間にわたる前三神会長時
代の日本女医会の基礎的な発展は、
偉大な業績であり、今日、日本女医
会をゆるぎないものにされました。
そのあとをうけて山崎会長が就任し、
新執行部も誕生して二十一世紀を迎
えようとしております。今後輝かし
い発展を達成するに当たり、先輩た
ちの歩んだ歴史も学ぶことがさらに
拍車をかけることになりましょう。

監事に就任のご挨拶



山口 三重

私ども三名、西山喜代子様、山口
三重様と力を合わせて、監事の責任
を果たしたいと存じます。今後とも
皆々様の協力をお願い申し上げます。
次第でございます。

監事就任のご挨拶



西山喜代子

月日の流れは水の流れにも似て、
休むことを知らない。早い訳だ、光
陰矢の如しといわれる所以でもあ
る。私の監事就任もすでに七年目を迎

決して所を得た役柄とはいき目にも
いえない。しかし、幸いにして支
障なく今日を迎え得た事を、有難く
思う。
会則に定めた監事は三名で、現在
は先輩の添田百枝氏、山口三重氏と
私である。思えばそれぞれに出身校
は異なるけれど、お互いに協調と融
和の姿勢を崩さず、何事も、相談し
合って睦まじく過ごした事、また
一つには日本女医会の事務員が誠実
勤勉であり、責任感が強く、すべて
の書類にわたって間違いがなく、安
心して任せていられるという信頼感
に救われて、ともかくにも、人並

今年役員改選に際し、添田先生、
西山先生とともに無投票当選により
監事に就任させていただきました。
思えば日本女医会とは本場に永い
おつき合いです。戦後再発
足間もなくから歴代会長、佐藤やい
先生、龍先生、三神先生、山崎現会
長のもと理事から監事へと続いて役
員の末席を汚させていただきました。
当初の三女子医専出身者と、その他
出身女医の四本柱の時代から年を追
うごとに発展し、社団法人認可、吉
岡賞設置、万博医療奉仕、国際女医
会開催等々、現在では会員も七十校
の大学卒業生を擁し、理事会の活動
も活発に、国際的にも名実ともに立
派な女医会になってまいりました。
今後は二十一世紀に向けて激動す
る社会情勢、医学界の動向に対応し
て、会の姿勢も変えてゆかねばなら
ぬ事もあるかと存じます。監事は

葛飾支部 山口 三重
理事のごとく仕事の受け持ち分野は
ありませんが、会計監査はもとより
理事会にも出席して常に幅広く会の
動向を知り、会員相互の一致と親和
を計りながら、少しでもお役に立っ
存在でありたいと存じます。
会長はじめ、役員、会員の皆様、
何卒よろしくお願ひ申し上げます。
最高裁判所長官表彰
吉田幸子さんは小児科の開業医で
ある。この度、昭和六十三年十月一
日をもって最高裁判所長官表彰をう
けられた。吉田さんは昭和四十五年
一月一日長崎県佐世保支部の調停委
員に選任され今日の栄光を得られた
のである。
家庭ではよき主婦。なお短歌をよ
くされ、ご長女はすでに医師として
熊本に嫁し活躍中である。(広報部)

第二回ワークショップ

テーマ「自己免疫疾患」

第二回ワークショップ開催される

学術部 藤井 儔子

昭和六十二年七月十六日(土)午
後二時三十分から第二回ワークショ
ップが小俣喜久子副会長、野呂幸枝



ワークショップ会場風景

理事(学術部)を座長として開催さ
れた。雨の多いこの夏の一時、今回
も北は青森、南は愛媛の遠方からの
参加者に、会員外の九名を含め百十
名が東京女子医大の臨床講堂に集ま
った。このワークショップは日本女
医会会員が講師となり、会員の生涯
教育のお役に立つことを基本とした
ものであるが、近い将来には会員外
の医師にも自由にご参加いただくよ
うにしたいと考えている。

テーマ「自己免疫疾患」は少々難
しいとの印象を与える領域であるが、
先般のアンケート第三位を占めたも
のである。私どもが医業にたずさわ
る限り、進歩した医学的知識を少し
でも日常の医療に利用する義務があ
ろう。日本女医会には専門領域にお
いても第一人者と認められている会
員が大勢おられるため、気軽にしか
もレベルの高い勉強会が持てるのは
大きな幸いである。

●昭和63年7月16日
●於・東京女子医科大学

がらの四名の講師の講演をうかがっ
た後、私が感じたことの一つは、今
日のテーマ「自己免疫疾患」は数年
後に再びとり上げる必要があるの
ではないかということである。それほ
ど免疫学の進歩は著しい。しかし、
まだまだ完全治癒しない病気がほと
んどであり、まして予防への助言は
手がつかない領域である。

順天堂大学医学部講師・広瀬幸子
先生は自己免疫の成立の機序が現在
どこまで明らかとなってきたか、興
味あるモデル動物の症状にもふれら
れて、臨床像の多様性を理解しやす
く話された。長年のご自身の研究成
果である。東京女子医大整形外
科教授・菅原幸子先生は慢性関節リ
ウマチについて日々の診察において
患者を前にした際すぐ役立つ事柄を
こまごまと解説された。ついで帝京
大学医学部皮膚科教授・溝口昌子先
生は自己免疫疾患が皮膚の病態とし
てどのように発現してくるか、代表
的SLEをはじめとし、日常の診療
で集められた多くの症例スライドを
示されたのお話であった。最後にベ
ーチェット病の研究を長年続けてお
られる東京女子医大眼科教授・
小暮美津子先生の、これもご自身で
集められた多くの症例を上げての説
明に、あつという間に閉会が近づい
てしまった。

第34回 日本女医会定時総会のご案内

日時 昭和64年5月20日(土)・21日(日)
場所 ホテル ニュー・ツカモト
千葉市千葉港七ー一
総会 5月20日(土)午後1時より
講演 5月20日(土)午後3時30分より
演題/消化管の早期癌をさがして30年
講師/順天堂大学名誉教授
白壁 彦夫
懇親会 5月20日(土) 講演終了後
観光 5月21日(日)
〈Aコース〉
成田山新勝寺―デイズニールランド他
〈Bコース〉
行川アイランド―鴨川シーワールド―
デイズニールランド他

*なお、評議員会は、5月20日午前11時より、同ホ
テルで行なわれます。

日本女医会千葉支部長
日高 歐子

表2 非ステロイド抗炎症剤の剤形と投与ルート

経口剤	腸溶剤 徐放剤	アスピリン インドメタシン、(ジクロフェナクナトリウム) アスピリン
	マイクロカプセル プロドラッグ	アスピリン フェンブフェン、スリンダク アセメタシン、ロキソプロフェン、 ナトリウム、(プログルメタシン)
	長時間型	ピロキシカム、オキサプロゾン テノキシカム
注射剤		ケトプロフェン、アスピリン、(マイク クロスフェア非ステロイド抗炎症剤)
坐剤		インドメタシン、ジクロフェナク・ ナトリウム ケトプロフェン、(ピロキシカム)
経皮吸収剤	軟膏 外用液 貼付	インドメタシン、ケトプロフェン、 フェンブフェン、ピロキシカム インドメタシン インドメタシン、ケトプロフェン、 フルルピプロフェン

()内は開発中

表1 慢性関節リウマチ(RA)診断基準
(アメリカ・リウマチ協会 1987年改訂)

1. すくなくとも1時間以上持続する朝のこわばり(6週間以上持続)
2. 3個以上の関節腫脹(6週以上持続)
3. 手(wrist)、中手指関節(MCP)、近位指関節(PIP)の腫脹(6週以上持続)
4. 対称性関節腫脹
5. 手・指のX線の変化
6. 皮下結節(リウマチ結節)
7. リウマトイド因子の存在

表3 非ステロイド抗炎症剤と免疫療法剤との比較

	抗炎症剤	免疫療法剤
作用発現に至る期間	短期間(数日)	長期間(1~2ヵ月)
投与中止後の効果	短期間で投与前に戻る	長く存続する
血沈値の改善	軽度	著しい
リウマトイド因子の陰性化	なし	あり
関節外症状(臓器)に対し	無効	有効
慢性関節リウマチ以外の関節炎に対し	無効	無効
動物の炎症モデルに対し	有効	無効
慢性関節リウマチの予後に対し	不変	改善
長期投与による耐薬性	なし	あり

複合体を形成する。最近、モノクロナル抗体が開発され、関節の炎症局所に集合しているリンパ球のサブセットは、主としてヘルパーTリン

パ球の機能が異常に亢進し、RFの産生が起こるとされている。次に免疫複合体が補体と結合し、それによって補体が活性化されると血管透過

性が亢進する。その結果、滑膜中にリンパ球や好中球、マクロファージが浸潤し、関節液中に好中球が集まり、免疫複合体を貪食し、コラゲナーゼや活性酸素、プロスタグ

インジエンEなどを放出し、軟骨や骨を破壊する。RAの診断基準としては、国際的に使用されているのは

米国内科医学会(AARA)が一九五六年から一九五九年にかけて作成したものであるが、一九八七年にARAが改訂したものを表1に示す。

しかし診断基準に一致する症例があっても、RAでない可能性もある。除外項目を慎重に検索する必要がある。新しい

RAの治療は病因に基づく根治療法はなく、抗リウマチ剤・寛解導入剤は免疫に関与するというので、

なっているが同一系のものは、ほぼ類似的作用を持っている。病態によって高率な薬効、副作用の少ないことを考慮するならば表2に示した剤形、投与ルートなど上手に活用する

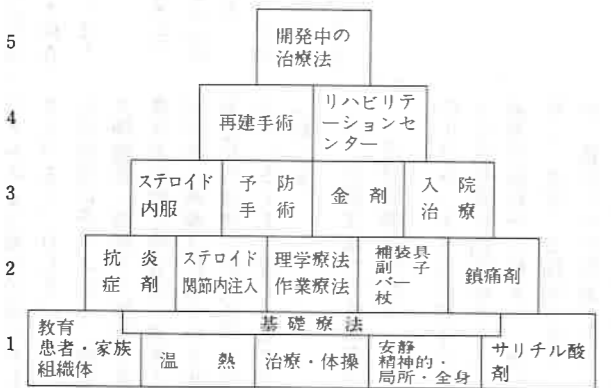


図1 Smithのpyramidal plan (Charley J. Smith; Postgraduate Medicine 1972年)

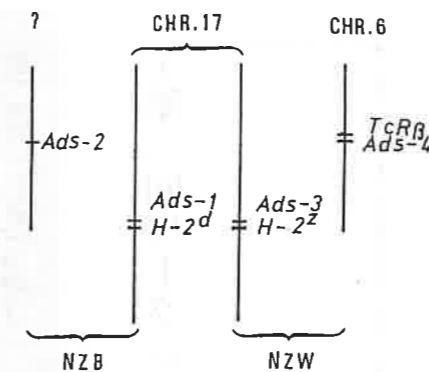


図1 B/WF,マウスのIgG抗体産生に係わる遺伝子Ad5-1,2,3,4の遺伝子地図

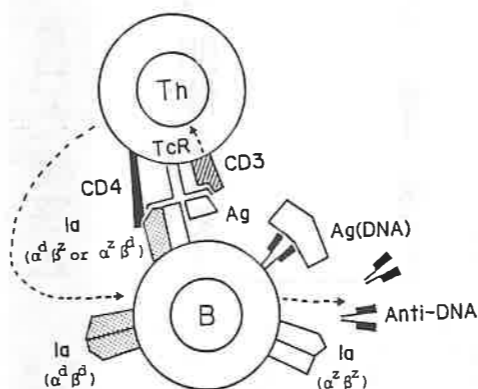


図2 IgG抗体産生に係わるT細胞とB細胞の相互作用

W/F₁マウスのIgG抗体産生には、少なくとも四つの遺伝子が関与していることが明らかとなった(図1)。そのうちの二つは、NZBマウス由来であり、他の二つはNZWマウス由来である。し

近年、免疫学のめざましい進歩によって、免疫応答における免疫細胞間の相互作用が解明されるようになり、慢性関節リウマチ(RA)は著しい免疫異常を伴うことが明らかとなり、RAはⅢ型アレルギーの免疫複合体疾患と考えられるようになって

(RF)が証明され自己抗体の性状を有している。関節破壊の機序の一つは、RFをはじめとする自己抗体の無秩序な産生に由来するものがある。まずマクロファージや樹枝状細胞の異常、サブプレッサーT細胞の機能低下、ヘルパーT細胞の機能亢進などにより自己抗体が産生される。この自己抗体は抗原と結合して免疫



講師 広瀬 幸子 順天堂大学病理学

自己抗体の由来とその産生統御機構

自己免疫疾患の代表とされる全身性エリテマトーデス(SLE)には、抗DNA抗体などの自己抗体の産生、高免疫グロブリン血症、ループス腎炎などさまざまな病態が出現する。

合を折にふれて自分に課すためにも、このような会の意義は大きいと考えられる。今後勉強したいと考える領域についてのご意見を、いつでも結構です。すから女医会本部へお寄せいただけましたら幸いです。

SLE病態のうち、今回は特に抗DNA抗体産生について、SLEのモデルマウスであるNew Zealandマウスを用いて検討を加えた。New Zealand Black(NZB)マウスとNew Zealand White(NZW)マウスの交配第一代雑種NZB×NZW(B/WF₁)マウスは、ヒトSLEの場合と同様に高力価のIgGクラス

抗DNA抗体産生に係わる遺伝子の作用は、当然、免疫担当細胞に表現されると考えられる。そこで、*in vitro*の系での解析を試みた。その結果、IgG抗DNA抗体産生には、抗体産生B細胞と、これに対する補助T細胞が必要不可欠であることが示された。これらの事実を考慮すると、

果は、L₁T₁陽性補助T細胞膜上に「Co」として表現されている可能性が強く示唆される。この際、B細胞もT細胞もB/WF₁マウス由来であることが必要であるので、F₁マウス特有のIa分子とTcRが重要な役割を担っていると思われる。Ia分子はH-2領域に支配されるα鎖とβ鎖の二量体から成っている。B/WF₁マウスでは、NZB由来のαβ、NZW由来のαβのホモIa分子に加えて、NZB由来とNZW由来のα鎖、β鎖が無作為に結合したαβ₂あるいはαβ₁のようなhetero Ia分子が生じるはずである。このようなhetero Ia分子が、特異なTcRとの協同作用によって、IgG抗DNA抗体産生に関与しているものと理解される(図2)。

関節リウマチの基礎と臨床



東京女子医科大学第二病院整形外科 教授 菅原 幸子

RAの治療は病因に基づく根治療法はなく、抗リウマチ剤・寛解導入剤は免疫に関与するというので、

なっているが同一系のものは、ほぼ類似的作用を持っている。病態によって高率な薬効、副作用の少ないことを考慮するならば表2に示した剤形、投与ルートなど上手に活用する

皮膚科領域における自己免疫疾患



帝京大学皮膚科 教授 溝口 昌子

皮膚科で診る機会のある自己免疫疾患のうち比較的頻度の多い疾患につき以下に述べる。

(1) SLE...本症にみられる皮疹を頻度の高い順にあげると、蝶形紅斑九〇%、掌蹠紅斑五〇%、脱毛四二%、粘膜炎四〇%、日光過敏症、円板状疹(DLE)二八%、Raynaud現象一七%などがある(図1)。この

評議員および予備評議員名 (63・4・23現在)

Table with 4 columns: 支部 (Regional Branch), 評議員 (Member), 予備評議員 (Candidate), 支部 (Regional Branch). Lists names of members and candidates across various regions.

うち掌蹠紅斑は強皮症や皮膚筋炎で... SLE患者の皮疹を生検し蛍光抗体直接法を行なうと免疫グロブリンや補体の沈着が高頻度(90%以上)に認められる。また一見正常な皮膚(無疹部)でも約60%に証明される。免疫複合体の沈着したものと考えられている。無疹部の蛍光抗体直

図1 SLE皮疹別の頻度

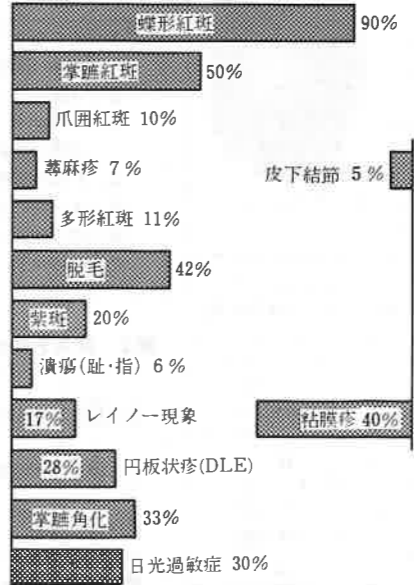


表1 PSSの皮疹

レイノー症状
皮疹: 浮腫期→硬化期→萎縮期
(指) 指端硬化症, マドンナの指
鼠咬傷様潰瘍, 断指状
(顔) 仮面様顔貌, 鼻尖がとがる, 小口症
(口腔内) 舌萎縮, 舌小帯短縮
色素沈着および脱出(胸部)
石灰沈着 (CRST Syndrome, CREST Syndrome.)

表2 限局性強皮症の分類

- 1) 斑状強皮症
2) 多発性斑状強皮症
3) 線状強皮症または帯状強皮症
a) 剣創状強皮症
b) 半側萎縮を伴った強皮症

表3 皮膚筋炎の皮疹

眼瞼へりオトロープ様紫紅色腫脹
顔面紅斑(蝶形紅斑)
Gottron's sign (指関節背面紫紅色皮疹)
爪囲毛細血管拡張
脂漏性湿疹様紅斑
Poikiloderma 様皮疹 (色素沈着と脱出, 萎縮, 落屑, 毛細血管拡張)
石灰化

ことがある。頻度の高いDLEについて述べると、DLEはさらに限局型と汎発型に分けられる。限局型は日光曝露部に限局して皮疹を生じ、通常全身症状も検査値の異常もない。汎発型は被覆部にも皮疹を生じ、全身症状や血清学的検査の異常を生じ易く、SLEに移行することがある(約5%)。

(2)限局性強皮症・表2のごとく分類される。DLEがSLEに移行することがあるのと異なり、本症は表2の(2)多発性斑状強皮症のごく希にPSSに移行することがあるだけで、通常PSSへは移行しない。

い。顔面にみられる蝶形紅斑はSLEに見られるものと臨床、組織ともに区別し難い。Gottron 徴候と呼ばれる指関節背面の皮疹は本症に特異的なものである。四十歳以上の本症では、内臓癌の合併が40%もの高率に認められる。筋炎に先行して皮膚症状が出現することも多く、注意深い皮膚の観察が必要である。

眼科領域における自己免疫疾患



東京女子医科大学眼科 教授 小暮美津子

眼病変をひきおこす自己免疫疾患には、大きく分けて主病変が眼局所に存在するものと、眼以外に主病変があり随伴症として眼病変のおこるもの二つがある。一、眼病変が主体の自己免疫疾患... 二、他の自己免疫疾患に随伴する眼病変

眼病変には、乾性角結膜炎、強膜炎、上強膜炎、角膜潰瘍、虹彩毛様体炎(前部ぶどう膜炎)、後部ぶどう膜炎、網膜血管炎、網膜炎(出血や棉花様白斑)、視神経症などさまざまなものがある。

慢性関節リウマチの二大眼合併症は、乾性角結膜炎と強膜炎で、虹彩炎は強膜炎や角膜病変に二次的に起こることがあるが、単独で発症するのは数%足らずである。

も認められ、主に毛細血管レベルの障害に起因する病変である。これより太い血管の障害は少ない。乾性角結膜炎も高率に合併するが、虹彩炎の合併は少ない。

酸化変性低比重リポ蛋白の代謝

神奈川支部 平松 和子

低比重リポ蛋白(Low Density Lipoprotein)は酸化変性を受けると、血管壁細胞に対して障害性に働いて、動脈硬化を促進する。この酸化変性LDLは、マクロファージのスカベンジャー・レセプターにより代謝される。したがって、血中の酸化変性LDLを低下させるためには、このスカベンジャー・レセプターが正常に機能する事が重要である。私は今までに、ヒトの単球が産生するスーパーオキシドは、LDLを酸化変性させる事(Hiramatsu, K. et al.: Superoxide initiates oxidation of low density lipoprotein by human monocytes. Arteriosclerosis 7: 55, 1987). 動脈硬化症を発生する頻度の高い、糖尿病高中性脂肪血症では、単球のスーパーオキシドの産生能が亢進している事(Hiramatsu, K. and Aiminori, S.: Increased superoxide production by mononuclear cells of patients with hypertriglyceridemia and diabetes. Diabetes 37: 832, 1988). を報告してきた。そこで本研究では、糖尿病高中性脂肪血症の動脈硬化症の発生機序の一つとして、マクロファージのスカベンジャー・レセプター機能の異常が関与するかどうかを明らかにする目的

昭和62年度 日本女医学会会員学位取得者一覧表 (学術部) 63.9.24

全国医科大学78校に調査依頼し49校より回答あり、結果176名の学位取得者中9名の既会員があり、会員外で住所判明の167名に入会のお誘いをし、7名の入会あり。(敬称略)

Table with 5 columns: 支部, 氏名, 出身校, 卒年, 論文名. Lists members and their research topics across various departments like北海道, 群馬, 大田, etc.

●丹田まり子……昭和61年度取得者

入っても、その科が嫌いでなければ、その科の中で自分を確立していくことが出来るものだと気がついたのである。 麻酔科は、現在約十五人のスタッフと、十人前後のローテーターで毎日の手術の麻酔にあたっている。主にローテーターが麻酔をかけ、その監督、指導にスタッフがあたるといった型をとっている。しかし、心臓麻酔や新生児麻酔、その他コンプリケーションケースはスタッフが担当しなくてはならず、主に四年目の私たちがそれにあたるようになる。ローテーターが多い場合は、後輩の指導にあたり、自分の麻酔がかけられず欲求不満に陥ることがあり、同期の他二人と症例をとりあうこともしばしば。しかし、スタッフケースが続き、なおかつ後輩の指導も行ない、さらに市中病院の出張がふえると、さすがに愚痴も多くなってくる。そして病棟や外来のペインクリニックもあり、また月に五、六回の当直も待っている。スタッフ一人ローテーター一人の二人当直であるが、最近特に緊急手術がふえている傾向にあり、オルナイトということも少なくない。決して楽な毎日ではないが、他の臨床に比べ、ポケットベルで呼び出されることはめったになく、くだらない事で病棟に縛りつけられることがないことがこの科のいいところである。

で、健康人、糖尿病単独、糖尿病と高中性脂肪血症を合併、高中性脂肪血症単独の四群で、単球からマクロファージを作成して、スカベンジャー・レセプター活性を測定して比較した。 方法として、対象からヘパリン採血を行なう。Conray-Ficolin上に重層して、遠沈法で単核球層を分離採取した。20%自己血清存在下で37°C、24h培養して単球をベトリ皿底に付着させた。十日間培養して、マクロファージを作成した。超遠沈法でLDL (d=1.063) を分離して、acetylationによりLDLの酸化変性を行なった。McFahne法でLDLを標識した。マクロファージに125-I-acetyl LDLを10ug/mlの濃度で添加して、internalization, degradation量を測定した。マクロファージ中の蛋白量はLowry法で測定した。 その結果、125-I-acetyl LDLの degradation量は、糖尿病単独群では健康人群と差を認めないのに対して、糖尿病と高中性脂肪血症の合併群、ならびに高中性脂肪血症単独群では、有意に糖尿病単独群ならびに健康人より低下していた。 この成績は高中性脂肪血症では酸化変性LDLの異化の代謝が低下していることを示している。したがって、高中性脂肪血症では、単球のスーパーオキシドの産生能が亢進しているために、酸化変性LDLはできやすく、またその異化も低下しているために血中の停滞時間が長い。その事



久保田くら先生

久保田くら先生 後輩の指導者として活躍でございませう。 今回の叙勲は周りの私にとってもまことに喜ばしいこととて、久

が動脈硬化の進展に関与しているものと考えられる。しかし、なぜ糖尿病に高中性脂肪血症が合併した場合に、糖尿病単独ないしは高中性脂肪血症単独より、動脈硬化が高頻度に発生するかの問いに対しての解答は、今後の研究を必要とする。

久保田くら常任理事の叙勲を祝す

広報部・常任理事 丸山 芙実

本年四月二十九日を期して、久保田くら常任理事がめでたくも女性として珍らしい勲三等瑞宝章を授賞されました。東京女子医専を卒業された先生は、基礎医学の中の解剖学という地味な道を選ばれて、慶応義塾大学に助手として席をおかれ、戦前そして戦後の混沌たる社会状況の中

熊谷優利枝(美津子)さんの 著書二つ

「朝霞の中で」医師で歌人である著者の日常をかいた随筆である。「紅霞」著書の短歌の師佐藤佐太郎氏亡き後の発刊とあって立派な短歌の月刊誌としての発展を期待する。 東京都杉並区高井戸東3-28-2 熊谷方

若い会員の口々

- 保田先生の反対をおしきって、あえてこの文を掲載した次第です。 次先生の略歴をこ披露申し上げます。 * 昭和14年3月 東京女子医学専門学校卒業 昭和14年3月 東京女子医学専門学校卒業 昭和14年3月 東京女子医学専門学校卒業...

- 昭和42年4月 東京女子医大理事 昭和56年3月 定年退職、名誉教授 この間、第18回日本医学会総会分科会第76回解剖学会総会会頭、厚生省医道審議会委員、日本解剖学会・先天異常学会、臨床電子顕微鏡学会、日本不妊学会の評議員、日本女医学会副会長などを歴任。 現在 学校法人東京女子医科大学理事・名誉教授 社団法人至誠会副会長 社会福祉法人至誠会理事長 社団法人至誠会第二病院染色体研究所所長 東京女子医科大学学名譽会員 日本解剖学会名譽会員 慶応義塾大学医学部非常勤講師 社団法人日本女医学会常任理事

神奈川支部 中島 絵里

常任理事会議事録

日時 昭和63年7月23日
場所 日本女医会 会議室

出席者(敬称略)
山崎、大原、小俣、佐藤、石原、久保田、佐野、白橋、二村、野沢、野本、橋川、橋本、丸山、三好、欠席者(敬称略)

藤井
庶務報告 三好常任理事

6月23日 理事会開催
7月1日 国際婦人年全体会へ

7月13日 佐野常任理事出席
7月15日 人口問題審議会へ山崎会長出席

7月16日 国際婦人年全体会へ佐野常任理事出席

7月16日 第二回ワークショップを東京女子医科大学臨床講堂にて開催(百十名出席)

7月16日 群馬支部総会へ白橋常任理事出席

7月16日 愛知県医師会主催「生命と倫理を考える」シンポジウムに山崎会長、講師として出席、当日のテーマ「向き合って高齢者社会」司会/佐藤副会長

7月16日 日米女性合同討論会テーマ「女性の生き

方」に渉外部佐野、野沢両常任理事出席
7月18日 国連NGO国内婦人委員会に佐野常任理事出席

会計報告 野本常任理事
別紙どおり報告

各部報告
(學術部) 橋本常任理事
(第二回ワークショップ終了報告) および会計報告(計五〇八、二六〇円)

(事業部) 石原常任理事
(禁煙ポスターの完成作品提示) 久保田常任理事

(広報部) 次回の会誌発行は、八月二十五日を予定。

議事
一、名簿発行について
二、日本女医史の編纂について

三、日本女医史の作成にあたり以前理事会で編集委員として推薦された方以外にも委員を依頼する。(五十音順)

編集委員長 久保田くら
編集委員 大原一枝、小俣喜久子、川那部喜美子、佐藤イクヨ、中川富士、丸山芙美、三神美和、山崎倫子

三、第十一回學術講演研修会について

日時/昭和六十三年十一月十九日(土)
理事会 午後二時~三時
講演会 午後三時三十分~五時
懇親会 午後五時から
場所/東京女子医科大学内
理事会 中央校舎会議室
講演会 臨床講堂(1)
懇親会 佐藤記念館
演者/北里研究所東洋医学総合研究所所長・大塚恭男先生
演題/未定
懇親会会費 二、〇〇〇円
四、その他
(1)本部役員出張の場合の交通費および宿泊費支給規定について
交通費/最低運賃に準ずる。
宿泊費/一律一〇、〇〇〇円

会員動静

入会会員(敬称略)
宮城支部 佐藤素子 青葉祐子
池野暢子
埼玉支部 大竹喜世

栃木支部 馬場安紀子
千葉支部 青木瑞枝
墨田支部 森 礼子
練馬支部 中島由美子
東女医学内支部 松岡瑠美子
山梨支部 白須ツギ子
静岡支部 竹下こと 土川知香枝
広島支部 石井篤子 荒木寿枝
島根支部 梶谷文子
新卒入会会員(敬称略)

北海道支部 桜井久美
宮城支部 森川みき
栃木支部 加藤研子 前川るか
室井恭子
東女医学内支部 菊地美由紀
石川支部 岡部珠美
物故者(敬称略)
福島支部 松沢長子
中央支部 荒川あや
三重支部 田合玉野

集記



今年の夏の異常気象にとまどいながらも秋らしい青空をのぞめる季節となりました。会員諸先生にはお変わりなくご活躍のことと拝察致します。

先般のソウルにおいての五輪オリムピックも世界百六十カ国参加という華やかさの下に、融和と協調と平和という大パノラマを描いて平穩の中に大成を取め終了しました。開催国および各国参加選手のご健闘に心よりの拍手を送りたいものです。さて会誌第百十六号をお届け致します。今回は小俣副会長に巻頭言を飾っていただきました。そして三監事先生方の抱負と所信を掲載いたしております。ご多忙中のご投稿を感謝申し上げます。
(広報部一同 文責・丸山芙美)

昭和63年10月20日 印刷
昭和63年10月25日 発行
編集人 久保田くら
発行人 日本女医会
発行所 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル
社団法人 日本女医会
TEL(498)〇五七-
制作 東京都文京区水道1-5-16(815)六六六一
株式会社 金剛出版